

科目名	映像リテラシーB1（映像メディア1）							年度	2024
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	佐藤博昭		教員の実務経験		あり	実務経験の職種		映画監督	
【科目の目的】									
今日の映像を巡る環境は多様化しているが、歴史上の重要な映像作品を鑑賞し、それが制作された意味を知ることが重要である。少なくとも映像を制作するものが、知っておくべき歴史を学ぶことができる。一方で、映像技術の展開を、映像による様々な表現と照合しながら、今日に至る多様性をたどり考察する事ができる。メディアとしての映像は、産業としての多様な発展を繰り返し、映像と隣接する芸術分野への波及は新たな表現を生み出した。各回で主要な作品とその背景を分析し、表現方法とコンセプトの関係をj知る事ができる。									
【科目の概要】									
映像表現の現状を把握するために、映画、ビデオ、アニメーション、CG、メディアアートなどの表現を紹介し、その技術・表現を考察する。その後、時代をさかのぼりながら、いくつかの時代と表現方法によって分類し、カテゴリー別にその特徴や作家の方向性を考察できるよう設定する。授業は大きく分けて、以下の3つのパートに分かれるが、1～3の順番ではなく、時代を行き来しながら構成していく。 1. 劇映画・記録映画 2. アニメーション・CG・個人映像 3. 現在の様々な映像表現									
【到達目標】									
映像メディアの歴史と表現との相関を説明できる。映像の形式・分類にとらわれず、作品を見る力と批評する能力を身につける。映像表現に隣接する諸芸術やその時代背景などに幅広く関心を持つことができる。									
【授業の注意点】									
映像作品を正しく鑑賞する態度を身につけるために、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。各回で紹介した映画、映像については、同一の作者の他の作品や関連する映像を、積極的に調べてほしい。検索に必要なキーワードなどはその都度提示する。毎回、授業の始めにコメントペーパーを配布し、感想や疑問点、質問などを記入する。授業のおわりに回収し、質問への回答などは次の冒頭にフィードバックする。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A 写真から映画の歴史	映画がいかに登場、成長してきたかを正しく理解している		その歴史をある程度は理解している			理解がおぼつかない			
到達目標 B 報道、ドキュメンタリーの意味、存在の確認	エンタメではない映像の在り方を正しく理解している		報道番組、ドキュメンタリー番組の存在意義をある程度理解する			理解がおぼつかない			
到達目標 C 映像の幅	世界各国の様々な映像に触れ、受け入れる懐が深い		ある程度各国の映画の知識はある			知識がない			
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】									
期末試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

[illegible]